

宮城県中学校体育連盟卓球専門部競技規則

(「宮城県中体連卓球競技規則」と略)

【1】まえがき ～宮城県中体連卓球競技規則とは～

宮城県中体連卓球専門部が主催・共催する大会では、日本卓球ルールを採用して競技を行います。しかし、中体連の大会では、日本卓球ルールに規定されていない内容で競技を行ったり、場合によっては日本卓球ルールを一部緩和して適用する場面等が出てまいります。そのため、以下の3つのことを明文化し、競技が公正に行われることを目的としてこの宮城県中体連卓球競技規則を作成しました。

- ①「日本卓球ルールに規定されていないこと」
- ②「日本卓球ルールを変更して運用すること」
- ③「日本卓球ルールを中体連用に解釈して運用すること」

【2】宮城県中体連卓球専門部が主催・共催する大会

	大会正式名称	略称	種目
1	宮城県中学校総合体育大会 卓球競技	県大会	男女団体 男女個人(シングルス)
2	宮城県中学校新人卓球大会個人戦 兼 平成○年度全日本選手権(カデットの部)宮城県予選	カデット	男女個人 (シングルス・ダブルス)
3	宮城県中学校新人卓球大会	県新人	男女団体 男女個人(シングルス)

【3】競技運営について

宮城県中体連卓球専門部が主催・共催する大会は以下の3つに基づいて競技を行います。大会期間中に監督会議等はいませんので、大会に参加する場合は事前に以下の3つを確認してください。

		入手方法
1	日本卓球ルール	日本卓球協会 Web サイトからルールブックを購入 http://www.jtta.or.jp/
2	宮城県中学校体育連盟卓球専門部競技規則	本文書 宮城県中体連卓球専門部 Web サイト http://www.mctr-tt.com/ ※常時掲載
3	大会ごとの「競技上の注意」	宮城県中体連卓球専門部 Web サイト http://www.mctr-tt.com/ ※大会が近くなると、該当大会ページに掲載

【4】目次

	項目	ページ
1	団体戦について（概略） ・形式 ・3点先取 ・オーダーの提出 ・オーダーミス	3
2	団体戦における服装	4
3	タイムアウトについて	5
4	個人戦アドバイザーのベンチ移動について	6
5	団体戦男女兼任監督・アドバイザーのベンチ移動及び監督権限等について	7
6	団体戦の選手人数不足での参加について	8,9
7	団体戦の応援等について	10
8	幕，旗の掲示について	11
9	ゲームの時間計測について（促進ルール）	12
10	外部コーチ・校外コーチの登録について	13
11	団体戦におけるアドバイザーのタイムアウト権限について	14
12	【平成26年度から実施】 監督・アドバイザー変更ルールについて	15
13	【平成26年度から実施】 宮城県中学校新人卓球大会 「無条件出場」と「特別枠」について	16
14		
15		

【5】－1 団体戦について（概略）

（１）１ダブルス４シングルの５試合方式（６人制）で行う。

（２）選手は、団体戦１試合の中で、シングルスとダブルスに重複して出場することはできない。

（３）試合順序は以下の通りとする。

１番：シングルス ２番：シングルス ３番：ダブルス ４番：シングルス ５番：シングルス

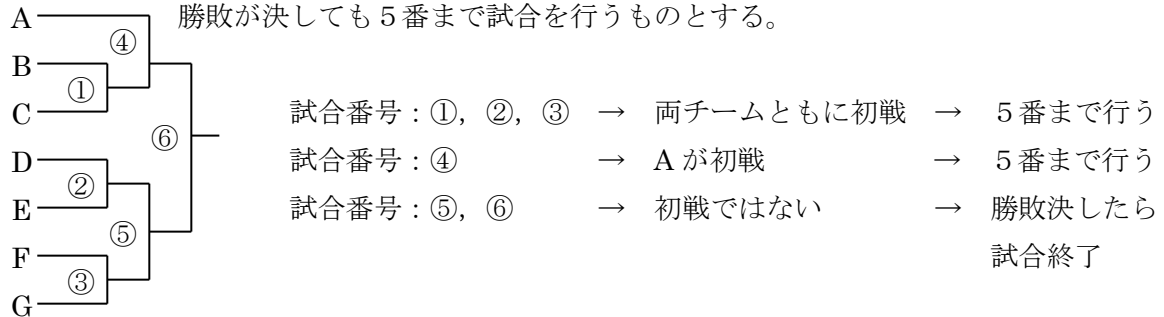
（４）３点先取法で行う（※注１）

① どちらかのチームが３勝し、試合結果（３－２，３－１，３－０のスコア）が確定した段階で試合を打ち切る。

② 例えば、一方のチームが１，２，４番で勝利し、そのチームが３勝しても、試合結果（３－２，３－１，３－０のスコア）が確定しないため、この場合は３番の試合を最後まで行う。

（※注１）宮城県中学校総合体育大会卓球競技（いわゆる「県大会」）の初戦のみ、

勝敗が決しても５番まで試合を行うものとする。



（５）オーダーの提出について

① 大会ごとに定められたタイミングで、進行席にオーダーを提出すること。

② 一度提出されたオーダーは原則として変更できない。

※ オーダーの作成・提出前に対戦相手を確認するのは監督の責任とする。

結果の掲示が間に合っておらず、次の対戦相手が分からない場合には、監督等が進行席で次の対戦相手を確認することが出来る。

（６）オーダーミスの取り扱いについて

① オーダーの確認は監督の責任とする。大会運営側では、提出されたオーダーが正規の要件に合致するかの確認は行わない。

※ 本来的には大会運営側でオーダーのチェックを行うのが望ましいが、上位大会(東北大会・全中)でもオーダーチェックが行われていないこと等を鑑み、宮城県でも行わないこととする。

② オーダーミスが発覚した場合は、基本的には、「日本卓球ルールブック〔付録３〕○オーダーミスの取り扱いについて」に基づいて、審判長が取り扱いを決定する。

③ 基本的に審判長は以下の３つの基準でオーダーミスを取り扱う。

- ・ 提出されたオーダーを最大限有効として試合を成立させる。
- ・ 相手校の不利益にならないようにする。
- ・ オーダーミスしたチームに対しても、棄権の試合が最小限(できれば０)になるようにする。

【5】－2 団体戦の服装について

(1) ルール条文 日本卓球ルール

① 2.2.2.8 抜粋，途中略

団体戦に出場するチームの全競技者は、靴及び靴下を除いて、同じ服装で競技しなければならない。

② 2.2.2.9 抜粋，途中略

対戦する競技者の、競技用シャツ、ショーツまたはスカートは、互いに区別できる程度に異なった特徴を持つものでなければならない。

※ つまり、団体戦では登録メンバー全員が、揃いのユニホームを2セット以上準備しなければならない。

(2) 考え方

ルールを遵守したい。そのため、(1)の通りに服装を揃える事を大前提とする。しかし、真にやむを得ない事情（災害等）により揃えられない場合は、(3)のように取り扱う。尚、これは宮城県中体連卓球専門部の取り決めであり、東北・全国中学校卓球大会等では、(1)の通りにルールを適用しているので、そのような大会に出場する際にはくれぐれも注意をすること。

(3) 団体戦服装の取り扱い

① 団体戦で競技する選手（6名）について

- ・ シャツは同じものを着用すること。
- ・ ショーツ・スカートは同色のものを着用すること。
- ・ 同色であれば、ある選手はショーツ、別の選手はスカートでも容認する。

② ベンチ入り選手について

- ・ 競技する選手と違うユニホーム姿でのベンチ入りは認めない。ただし、ユニホームの上にジャージを着る等、見た目に違うユニホームであることが分からない場合は、ベンチ入りを容認せざるを得ない。

③ 対戦する学校同士が同じユニホームだった場合

- ・ 一方のチームが着替えをするのが望ましい。
- ・ 着替えが不可能・困難な場合（1着ずつしかない場合等）は、両チーム同じユニホームでの競技を容認せざるを得ない。（望ましくはない）

④ 既製のユニフォームに、学校名以外の文字を入れたものは使用しない。また、ゼッケンピンについても、既製のゼッケンピンに装飾を加えることはしない。

(4) 注意事項

- ・ 真にやむを得ない事情で、上記(3)の要件を満たせない場合には、開会式前、できるだけ早い時間帯に審判長まで申し出ることとする。
- ・ (3)の要件を満たせないとき、場合によっては棄権とせざるを得ないこともあるため、十分に気をつけて大会に参加すること。

【5】－3 タイムアウトについて

(1) タイムアウトの適用について・・・~~教師審判のときのみ適用する~~

	大会正式名称	タイムアウトの適用について
1	宮城県中学校総合体育大会 卓球競技	団体は準決勝から適用 個人はベスト8決定戦から適用 (東北大会進出がかかる試合から)
2	宮城県中学校新人卓球大会個人戦 兼 平成○年度全日本選手権(カデットの部)宮城県予選	全種目 準々決勝から適用
3	宮城県中学校新人卓球大会	団体・個人とも 準決勝から適用

(2) タイムアウトの要求の仕方・・・日本卓球ルール条文から

2.4.4.2.3 ”タイムアウト”の要求は、ゲーム中のラリーとラリーの間にのみでき、その際手で「T」を示すものとする。

2.4.4.2.4 タイムアウトの要求を主審が確認したら、主審は競技を中断し、タイムアウトを要求した競技者または組の方にホワイトカードを掲げる。

(3) ルールの適用について

1) 団体戦の監督や、個人戦のアドバイザーがタイムアウトを要求するとき、「手で「T」を示す」だけでは、主審がその要求に気づかないことが多い。この場合、以下のような行動を認める。

- ①手で「T」を示す
- ②「タイムアウト！」と大きな声で主審に伝える。
- ③競技領域に入り、主審に「タイムアウト」と伝える。

2) 監督がタイムアウトを要求した場合など、主審がその要求に気づいていないのに、選手が競技を中断してベンチに戻ることがある。これは、相手競技者に悪影響を与えかねない行為として、無くしていきたい。このようなことを避けるため、以下の点に注意をして頂きたい。

- ・タイムアウトを要求した側は、主審がその要求を認めたと確認してからベンチに戻る。
(主審がホワイトカードを掲げた、主審がうなずいた、主審がタイムアウトと言った、など)

(4) 今後の課題

- ・生徒審判のときにタイムアウト制を適用できるかを検討する。
- ・もし生徒審判でもタイムアウト制を適用する場合、各大会の大会終了時刻を見積もる。
- ・現行よりもタイムアウト適用を広げるか検討する。

(5) 備考

(3) について、「東北中学校卓球大会」「全国中学校卓球大会」でも上記と同様の規定を適用している。

【5】－4 個人戦アドバイザーのベンチ移動について

(1) ルール条文 日本卓球ルール 2.5.1.2 抜粋

個人戦において、競技者または組はそのマッチ開始前に主審に登録された一人のアドバイザーからのみアドバイスを受けることができる。

(2) 考え方

選手にとって、これまで指導に当たってきた指導者(アドバイザー)がベンチにいる状態で試合をするのがベストであると考え。そのため、一人の指導者(アドバイザー)にとって複数の選手の試合が同時に行われている場合には、指導者(アドバイザー)のベンチの移動認めるべきであると考え。ルール上は「そのマッチ開始前に主審に登録された一人のアドバイザー」とのみ規定されており、これは、指導者(アドバイザー)が試合開始後にベンチに入ることや、試合途中にベンチを離れ、再び戻することを妨げるものではないと解釈する。

(3) 該当種目 …… 男女個人戦

(4) 具体的内容

① 【A選手の試合が既に始まっていたとき】

→ A選手のベンチに誰も入っていなかった時のみ、アドバイザーが試合途中でベンチに入ることが認められる。

(試合途中でのアドバイザーの交替は認めない)

② 【A, B 2選手が試合をしているとき】

→ B選手のベンチに誰も入っていなかった時のみ、A選手のアドバイザーが、B選手のベンチに移動することを認めます。

(この後、他のアドバイザーがA選手のベンチに入ることはできません)

→ また、この後、同一のアドバイザーならばA選手のベンチに戻ることを認めます。

(試合途中でのアドバイザーの交替は認めない)

(5) 注意事項

- ・ アドバイザーは、移動の際、競技の妨げとならないよう十分に気をつけること。

(6) 備考

「東北中学校卓球大会」「全国中学校卓球大会」でも上記と同様の規定を適用している。

【5】－5 団体戦男女兼任監督・アドバイザーのベンチ移動及び監督権限等について

(1) 考え方

選手にとって、これまで指導に当たってきた監督がベンチにいる状態で試合をするのがベストであるとする。そのため、男女兼任監督で男女の試合が重なった際には、監督のベンチの移動認めるべきであるとする。これに伴い、監督不在の際の監督権限の所在を以下のように定める。

(2) 該当種目

男女団体

(3) 具体的内容

- ① 監督・アドバイザーのベンチへの出入りを認める。
(男女で行ったり来たりして構いません)
- ② 監督不在の場合は主将に監督権限(抗議権、タイムアウト権)を与える。
(アドバイザーには与えられません)
- ③ 抗議に関する問題が発生した場合、監督がベンチに不在で、主将では問題解決に支障をきたす場合は、監督をベンチに呼んでくることを認める。ただし、これは相手競技者に不利益を与えないようにすみやかに行われる場合に限り認められる。

(4) 備考

- ① 「東北中学校卓球大会」「全国中学校卓球大会」も上記と同様の規定を適用している。
- ② 平成 23 年度、宮城県中学校総合体育大会卓球競技でこの規定を運用した。
監督が移動するのは大変そうだったが、相手校に不利益を与えるような場面はなかった。

【5】－6 団体戦の選手人数不足での参加について

(1) はじめに

「真にやむを得ない場合」または「緊急事情」において、宮城県中学校総合体育大会卓球競技団体戦（4S1W・6人制）の選手人数不足での参加（出場）を、以下の通り認めることがある。この処置はあくまで「真にやむを得ない場合」または「緊急事情」において適用されるものであり、通例とはしない。選手の人数不足同士の中学校（チーム）が対戦する場合、勝敗決定方法の一部に矛盾があるので特段の配慮を要する。なるべく、選手の人数不足同士の中学校（チーム）が対戦することは組合せ上避けたほうがよい。

(2) 「真にやむを得ない場合」と「緊急事情」

① 「真にやむを得ない場合」

→ 男女別の全校生徒数が5名以下しかいないこと。

（県新人大会では、「1，2年の男女別の全校生徒数が5名以下しかいないこと。」）

② 「緊急事情」

→ 大会当日大会開催地で急病または不慮の事故・事件が発生したため大会に参加（出場）することができないこと。また、それに準ずる事情のこと。

※ 新型コロナウイルス感染症のために、急遽チームの人数が4，5人になった場合も含む。

(3) 選手人数不足の範囲

選手人数不足は2名以内とする。大会には5名または4名で参加する。

(4) 出場の可否判断

① 「真にやむを得ない場合」について

申込段階で委員長が当該校に確認。その旨を委員長が部会長に報告し、部会長が参加（出場）を認める。

② 「緊急事情」

緊急事情発生の報告を当該校から受けた後すみやかに、「部会長・委員長・審判長」で協議し、部会長が参加の可否を決定する。

（次頁に続く）

(5) 選手人数不足の場合の勝敗決定について

選手人数不足であっても、参加を正式に認められた際には、正式に勝敗を決定する。
然るべき成績を収めた際には、上位大会への参加も認める。

1) 対戦相手が人数不足でない場合

- ① 1名不足で5名で出場の場合 1番棄権で試合を開始する
- ② 2名不足で4名で出場の場合 1番2番棄権で試合を開始する

2) 対戦相手も人数不足である場合

- ① 1名不足で5名で出場 対 1名不足で5名で出場 の場合
→ 1対1で試合を開始する 3番4番5番で勝敗を決定する
- ② 1名不足で5名で出場 対 2名不足で4名で出場 の場合
→ 2対0で試合を開始する 3番4番5番で勝敗を決定する
※ 2名不足で4名の場合は、3番4番5番のいずれも勝たねばならない
※ 1名不足で5名の場合は、3番4番5番のいずれか2名が負けてもよい
- ③ 2名不足で4名で出場 対 2名不足で4名で出場 の場合
→ 1対1で試合を開始する 3番4番5番で勝敗を決定する
※ 2名が先取したチームが勝ちとなる

(6) オーダーの作成について

人数不足校を含む対戦の場合、審判長（もしくは委員長）は、オーダー交換前に両校の監督（もしくはその代理のもの）に勝敗の決定法を説明し、その上でオーダーを作成・提出させる。

(7) 備考

「東北中学校卓球大会」「全国中学校卓球大会」でも上記と同様の規定を適用している。

【5】－7 団体戦の応援について

(1) ルールについて

応援については、バッドマナーの対象をのぞき、日本卓球ルールに規定されていない。

(2) 該当種目

男女団体戦

(3) 具体的内容

① ベンチでの応援について。

- ・ 立ちっぱなしの応援は認めない。
- ・ 1 ポイント毎に立ち上がって声援・応援をし、その後座るのであれば容認する。

② 団体戦のゲーム間のアドバイス時、競技領域内に入って選手を扇ぐ行為は、他のテーブルで行われている試合の妨げとならないよう最大限注意を払って行われる分には、容認する。

(4) 備考

「東北中学校卓球大会」「全国中学校卓球大会」でも上記と同様の規定を適用している。

【5】－8 幕，旗の掲示について

(1) 日本卓球ルール条文

2.2.6.1.1 幕はタテ1 m×ヨコ4 mを最大寸法とする横幕とし，文字の高さ15 cm以上25 cm以内のクラブ名（卓球部名）を入れるものとする。

2.2.6.1.2 旗はタテ1.5 m×ヨコ2 m以内とし，校章・社章またはシンボルマークを中央に入れ，タテかヨコ表示のクラブ名（卓球部名）を入れるものとする。

2.2.6.1.3 縦幕は原則として許可されない。また，前項の旗を縦に長くして掲示することはできない。

(2) 考え方

ルールを遵守したい。そのため，(1)の通りに幕・旗を掲示する事を大前提とする。しかし，既に代々使用してきたものや，せっかく保護者会等で作成して頂いたものが，(1)のルールに合わない場合もあるため，(3)のように扱う。尚，これは宮城県中体連卓球専門部の取り決めであり，他大会ではルールに適さない旗，幕を折り曲げて掲示するよう指示された前例もあるため，そのような大会に出場する際にはくれぐれも注意をすること。

(3) 旗，幕の取り扱い

1) 新規作成時

① 新規に旗，幕を作成する際には，ルールに適合したものを作ること。

2) これまで使用していた旗，幕のサイズがルールに適合しない場合。

- ① 若干大きい程度であれば，審判長の判断無く容認する。(各校で判断してください。)
- ② 「明らかに大きい」，「縦幕」等の場合は，掲示する前に審判長に申し出ること。
- ③ 掲示スペースが狭い場合は，折り曲げて掲示していただくこともある。

3) これまで使用していた旗，幕のデザインがルールに適合しない場合。

- ① 見た人から何中学校のものか分かるものであり，かつ，中学生の大会に掲示するものとして適当である場合は，審判長の判断無く掲示を容認する。(各校で判断してください。)
- ② 審判長の判断が必要と思われるデザインのものは，参加校の責任で持ち込まないでください。

4) のぼり旗

※ 最近，東北大会や全国大会で「のぼり旗」を見かけるようになった。地域の方々が持たせてくれた物ということで掲示を容認していたが，観客の視界をさえぎるものであるため，掲示する場所は制限されている。

- ① のぼり旗の掲示は望ましくない。
- ② やむを得ずのぼり旗を掲示する場合は，観客席最後列の後ろに限り，掲示を容認する。尚，通行の妨げや，観客の視界をさえぎると審判長が判断した場合は，撤去を依頼する。

【5】－9 ゲームの時間計測について（促進ルール）

（１）ルール・・・「日本卓球ルール 1. 15 促進ルール」をお読み下さい。

（２）ゲームの時間計測について

１）時間計測のやり方

正式には、競技領域外にボールを取りに行った際等も時計を止めて時間を計測する必要がある。そのため、大会によって「時計を止めながら 10 分経過したら促進」「時計を止めずに 11 分経過したら促進」など、その大会に合わせた時間計測が行われている。宮城県中体連卓球専門部主催・共催の 3 つの大会では以下のようにする。

- ① 主審の「ラブオール」の宣告で時計をスタート。
- ② 軽度のロスタイム(ボールを拾う等)で時計は止めない。
- ③ 「抗議」「タイムアウト」「予期せぬ長い中断」では時計を止める。
- ③ 10 分経過で促進ルール適用。(合計 18 ポイント以上では適用しない)

２）時間計測者

県総体の準決勝以降は教師審判で行うため、その教師もしくは教師が指名した副審が時間を計測する。それ以外では以下のように時間を計測する。

- ① 進行で長引きそうな試合を発見し、進行席で時間を計測する。
- ② 学校から時間計測の要請があった場合、進行席で時間を計測する。
- ③ 主審(生徒)が自分の時計や体育館の時計で時間を計測する。
- ④ 監督同士で申し合わせて、両方の監督が時間を計測する。

※ 1 ③④の場合は、なるべく早めに進行席に時間を計測している旨ご報告ください。

ストロークカウンターの任命等、促進ルール適用の準備をします。

※ 2 ④のように、監督が時間を計測する場合、相手監督に伝えずに片方の監督だけが計測するのは望ましくありません。この場合、10 分経過しても、促進ルールの適用が認められない場合があります。④の場合は必ず、相手監督と 2 名で計測するようにしてください。

（３）促進ルールの適用

１）10 分経過した段階でボールがインプレーだった場合

本来であれば主審がラリーを中断し適用するが、生徒審判ではそれが難しいため、そのコートにかけつけた審判係役員がラリーを中断し、促進ルールを適用する旨選手に伝える（主審が行っても構わない）。

２）ストロークカウンター

任命された者がストロークカウンターとしてコートに入る。この者はあくまでストロークカウンターであり、打球の数を数えるだけの者である。ポイントの判定等は主審・副審で行う。

３）促進ルールに持ち込むという戦術も存在するため、例えばゲーム終盤の重要な場面であっても、ラリーを止めて促進ルールを適用することもある。そのつもりで競技をすること。

【5】－11 団体戦におけるアドバイザーのタイムアウト権限について

(1) 日本卓球ルール条文（タイムアウトについて）

2.4.4.2.1（前半部分略） 団体戦においては，競技者，組または監督が要求できる。

2.4.4.2.2 タイムアウトの要求に関して，競技者または組と(中略)監督の意見が異なるときは(中略)，団体戦の場合は監督の要求が優先される。

(2) 考え方

タイムアウトの要求は適時性がたいへん肝要であり，複数台を使用しての試合では監督1人では対応が難しい場面が想定できる。

(3) 団体戦におけるアドバイザーのタイムアウト権限

複数台を使用する試合では団体戦のアドバイザーもタイムアウトを要求することができる。

(4) 備考

① 抗議権は団体戦のアドバイザーにはなく，監督のみにある。（従来通り）

② 「東北中学校卓球大会」「全国中学校卓球大会」でも上記と同様の規定を適用している。

【5】－12 監督・アドバイザー変更ルールについて

※ 平成25年度までのルールを、平成26年度から改定し、運用します。

1 これまでの監督・アドバイザー変更ルール

- (1) 大会初日の朝のみ監督・アドバイザーの変更を認める。
- (2) 3日間通して同じ者が監督・アドバイザーを務める。

※ 職印付の変更届け出用紙が必要。

2 改定の理由

3日間の県総体期間中に、それまで選手を指導してきた顧問が、何日か監督を務めることができないことがある。この場合、現行のルールでは以下の選択を迫られることとなる。

- ① 勝ち残った時に正式な顧問が監督をできるように、例えば、1日目は監督不在で試合を行い、2日目に正式な顧問がベンチに入る。

この場合、このチームが1日目で敗退した場合は、教師がベンチで見守らない状態で3年生は最後の大会を終えることとなる。

- ② 3日間を通して、別な教師（卓球部顧問ではない）が監督を務める。

この場合、例えば、1日目を卓球部顧問ではない教師が監督で勝ち抜いた場合、2日目にこれまで指導を行ってきた教師が大会会場にいながらベンチに入ることもできない。これでは、選手、正顧問、代理顧問の三者ともに不幸せな状況となる。

上の①、②の状況を避けるために、例えば1日目はA教師、2日目はB教師が監督・アドバイザーとしてベンチに入ることを認めたい。

3 改定内容・・・改定部分を太線・下線で示した。

- (1) 原則として大会初日の朝のみ監督・アドバイザーの変更を認める。
- (2) 原則として3日間通して同じ者が監督・アドバイザーを務める。但し、校長が必要と判断した場合に限り、大会途中での監督・アドバイザーの変更を認める。

※ 職印付の変更届け出用紙が必要。

4 実施時期

平成26年度宮城県中学校総合体育大会卓球競技から実施する。

5 備考

東北中学校卓球大会、全国中学校卓球大会では、「1これまでの監督・アドバイザー変更ルール(1)(2)」を適用しているため、注意を要する。

【5】－13 宮城県中学校新人卓球大会 「無条件出場」と「特別枠」について

※ 平成25年度までのルールを、平成26年度から改定し、運用します。

1 「無条件出場」見直しについて

- (1) H25 まで：全国カデットに出場する選手は県大会無条件出場

H26 から：全国カデットシングルの部に出場する選手は県大会無条件出場。

ただし、ペンホルダー枠の選手は除くこととする。

R6 から：全国カデットシングルの部に出場する選手は県大会無条件出場。

県中総体シングルの決勝進出選手は県大会無条件出場。

- (2) 「無条件出場」見直し理由

カデットシングルスで全国大会に出場した選手を無条件出場にするのは理にかなっている。しかし、ペンホルダー枠やダブルスでのみ出場する選手は、別な見方をすれば、シングルスで全国大会に出場する前に敗退しているということもできる。これにより、シングルス第4位の選手は無条件にならず、例えば、シングルスベスト16の選手が無条件選手となるなどの逆転現象も起きてしまうため。

日本卓球協会の強化事業「タレント発掘・一貫指導育成パスウェイ事業」への派遣選手の選考基準を、宮城県では全中予選優勝者（県中総体シングルス優勝者）としている。強化合宿の日程が、県新人大会の地区予選と重なることが多いため、県中総体シングルス優勝者を県大会無条件出場とする。優勝選手が強化事業への推薦を辞退することもあるため、時点の準優勝者も県大会無条件出場とする。これは、県中総体特別枠「前年度県新人大会決勝進出者」とも整合性が取れるため、妥当と考えられる。

- (3) 令和6年度大会から本案を適用している。

令和6年度のパスウェイ事業と県新人大会地区予選が同日程となったため、令和6年度第2回専門部総会において、県新人大会の要項上で特例的に本案を適用した。

2 「特別枠」設置について

- (1) H25 まで：特別枠は無い。団体戦1チームにつき、個人戦1人の枠

H26 から：カデットシングルの部ベスト8に入賞した選手の所属する郡市に＋1枠

ただし、無条件出場選手分はカウントしない。

- (2) 「特別枠」設置について提案理由

地区から団体戦1校につき1名の枠では県大会出場の可能性があまりにも低すぎるため。また、地区によっては県大会でも上位に入賞する選手を複数抱えており、本大会が県総体の大きなシード参考大会であることから考えても、枠が少なすぎるため。

- (3) 平成26年度大会から本案を適用する。

3 補足

- (1) 大会終了時刻 2つの提案通りに大会を行っても、大会終了時刻は例年よりも遅くはならない。
- (2) なぜ特別枠か 多くの選手に出場の機会を与えるため。また、地区大会でスーパーシードを置いたり、無条件選手が序盤で敗退する等のトラブルが発生するのを避けるという一面もある。

【6】付則

- (1) 「日本卓球ルール」「宮城県中学校体育連盟卓球専門部競技規則」「競技上の注意」に規定されていない内容については、審判長がその場で判断することとなります。つまり、「書かれていないから禁止されていない」ということには、必ずしもなりませんのでご注意ください。
- (2) この「宮城県中学校体育連盟卓球専門部競技規則」を逆手にとり、例えば「ユニホームは6つだけ揃えていれば良い」「結局のぼり旗は掲示が許される」等、自分勝手に解釈する学校が出てきた際には、この競技規則を厳しいものに変更していかなければなりません。そうならないように、常識ある解釈をお願いします。
- (3) この「宮城県中学校体育連盟卓球専門部競技規則」は宮城県中体連卓球専門部総会において改定できることとします。変更を希望なさる方は、自地区の専門委員の先生を通して、専門部総会に提案することとします。
- (4) 「宮城県中学校体育連盟卓球専門部競技規則」の制定及び改定の経過は以下の通り。

			参照するルールブック
1	平成 24 年 5 月	制定	日本卓球ルールブック 2011
2	平成 25 年 5 月	【5】－1 1 追加	日本卓球ルールブック 2011
3	平成 25 年 8 月	【5】－12, 13 追加	なし（中体連独自）
4	令和 4 年 8 月	文言修正	なし（文言修正）
5	令和 5 年 5 月	【5】－2 追加	なし
6	令和 7 年 8 月	文言修正	なし（文言修正）